

**種の概要**

殻長50mm前後の丸みのある卵円形で、後背部がわずかに湾入し、殻頂から後端縁にかけて太く低い隆起がある。殻表面には疣状の彫刻を有する。近畿地方から九州、四国に分布する。兵庫県但馬地方に分布するものは近畿以北に分布するヨコハマシジラ *I. jokohamaensis* とされ、分布の西限である。本種は成長すると殻頂が前方に寄り、殻形がやや細くなる。北海道南部から近畿に分布する。水路や流れの緩やかな河川、湖沼に生息する。

**主要な選定理由**

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	○	△	△	△	△	△	○

**県内分布**

三田市、加古川市、小野市、姫路市、養父市、香美町、新温泉町、篠山市

**県内における生息状況及びその他特記事項**

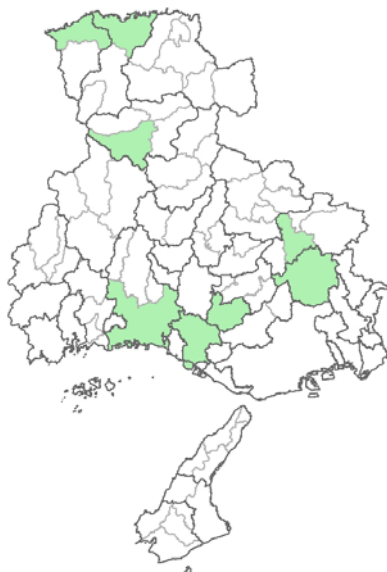
CからAに変更。本レッドリストでは、両種を地域型とみなし、1種として扱った。瀬戸内海・日本海流入の主要河川に分布する。日本海流入河川の岸田川と矢田川産はヨコハマシジラ形であり、円山川産と瀬戸内湾流入河川ではニセマツカサ形となり、河川争奪による生物相の歴史的背景が影響していると考えられる。各河川とも生息数は決して多くないが、武庫川では2000年頃までは広域に多産したものの、現在は著しく減少し、同時にこれらイシガイ科二枚貝に産卵するタナゴ類も激減している。

**保護上の留意点**

本川と連絡し、水田耕作に合わせた水量の増減が、彼らのホストとなる魚類の移動を促し、繁殖しやすい状況下になる。しかし、近年は農閑期に水を遮断するなど、魚介類の移動を阻止していることで、水路や支川の水生生物が激減している。また、小川の消失や川底に砂泥が溜らない水路への改修が目立つ。よって流れの緩やかで砂泥が堆積し、本川と連絡し、季節的水量の変動のある水路や小川、支流を維持すること。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修